

## 青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会における委員のご意見について

仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョンの策定にあたり、懇話会において活発なご議論等いただきました。その中から主なご意見を以下のとおり紹介します。

### 《青葉山エリアの特性・価値・コンセプトについて》

- ・ 青葉山エリアは、420年の歴史のうち60～70年ぐらい前にやっと市民の方たちが意識するエリアになったと考えると、実はこれからの場所なのではないか。高度経済成長で人口が増え、都市化が進んでいったときに、その開発とは一線を画して残った場所であり、特別な場所だということを前提に議論すべき。
- ・ 自然や歴史などそもそものエリアの価値として、政宗公のまちづくりへの思いや城下町づくりがある。こうしたことを踏まえた上で、エリアの強みや特性がある。これらの価値を伝えなければ、市民や来訪者に、このエリアは素晴らしく、訪れる価値があるという共感が及ばない。
- ・ 仙台のまちは、広瀬川を境に東側がビジネス・商業の中心地として栄えており、西側には自然が残されている。これは政宗公の最初のシティプランのとおりになっており、このようなまちは他にはない。
- ・ 最大の魅力は豊かなグリーンパブリックスペース。手つかずの部分があったからこそ守られてきた部分だろう。加えて、その所有者の多くは公共セクターであり、お互いに協力していけば、特別なエリアというもののまちづくりが進められるのではないか。官と民でどのように同じ方向を向いて作っていけるかということも重要。
- ・ 青葉山エリアは、かなり多様な機能がある。これをどう空間的・機能的にうまくつないでいくのかというところが、これからの最大のポイントとなる。
- ・ モノ消費ではなくコト消費などと言うが、上質な時間・洗練された時間といったことを統一の括りとして、その中で色々なストーリーを示していくといいのではないか。
- ・ 公共交通の利用を促し、公共交通と歩きで回るということをストーリーに入れて、自然や環境に配慮したまちづくりと一緒に、青葉山エリアのイメージを作っていけたらいいのではないか。
- ・ 目的を持たずに、今日は都心ではなく青葉山エリアで過ごそう、休日にふと行きたいなというような需要が増えれば、魅力づくりには成功したことになる。
- ・ 市民が青葉山エリアで歩くことを楽しむ、出張で仙台に来た人も自然環境の豊かなところで少しランニングやウォーキングを楽しむといったような、健康志向の部分も青葉山のイメージに組み込んでいくといい。
- ・ 市民が楽しんでいる姿に観光客は惹きつけられる。したがって、市民が散歩したりできる空間にして留まることのできる場所にすることが大事であり、これからの観光はそうした視点が大事である。

### 《青葉山エリアの自然について》

- ・ ビジョンには、自然を大切にすることと、創造と発展のために施設を作ることといった、相反するものが組み合わされている。そういうものを作ったとしても、既存の生き物に対しては損害が起きないということを担保するような形をビジョンには組み込んだほうがよい。
- ・ 人間中心ではなく、在来の生き物を追いやるといったことではないような、在来の生き物を加えることによって、それで観光なり人を呼び込むというような発想の転換をしてほしい。
- ・ 本当に豊かな自然、生物がたくさんあるので、それを大切にする視点を忘れず、天然記念物青葉山など、当然に保全されるべきエリアだということを伝える必要がある。
- ・ 自然を守る＝草木一本切ってはいけないという話ではなく、木を切って商業施設ばかりの開発をするというわけでもない。環境の持続可能性を保ちつつ、一方で我々の生活を豊かにするためにどう上手くバランスをとっていくのかということが大事。

### 《回遊性の向上について》

- ・ 市民の健康づくり、市外等（特に外国）から来た人は車を運転しない、政宗公の時代は当然歩いていただけなのでその歴史を大切にしたいという観点から、歩く空間を重視した方がいい。
- ・ 歩いてもらうためには「歩かされていると思わない」仕掛け、変化に富んだ歩行環境が重要となる。
- ・ 住民が楽しんでいるものは観光客も必ず楽しめるので、観光客のために何かを作る必要はなく、住民が普通に歩くコースをもう少し整備するとよい。
- ・ 地下鉄や車という交通手段だけでなく、歩いてもらうことも大事だ。それによって都心と青葉山エリアに来る人がどちらも楽しんでもらえる。そのためには、青葉通、都心とのつなぎ目となる大町や西公園などに店ができ楽しんで歩けるよう、民間の投資を呼び込む施策も必要。
- ・ ウォークブルシティで歩いて来てもらうというのが理想だが、市民だけではなく県内や周辺の県から仙台に来る方は、高速道路を利用する方が多く、どうしても車がベースとなるため、車のことも考えなければいけない。
- ・ 青葉山エリアに飲食店や商業施設がたくさん開発されるというのは違うと思う。都心と青葉山エリアが補完し合うという意味で、そういう機能は都心に求めればよい。青葉山に来た方は青葉山で完結するのではなく、都心に流れて買い物とか消費につなげるなど、青葉山エリアにない部分を補ってもらうことが大事。

### 《情報発信等について》

- ・ 「青葉山エリア」という言葉自体が、あまり認識されていないと感じる。そもそもこのエリアには名前がついていないが、川内や国際センターがこのエリアだということ自体が認識されていない。例えば観光マップにここが青葉山エリアだということを必ず書く等、その言葉自体が認識されることが重要ではないか。
- ・ 青葉山エリアを市民に知ってもらうとともに、市民が関わりを持ち続けてほしい。様々な形で、市民が主体的に関われるような何かが青葉山エリアでできると、足を運んでもらう機会を増やすということとセットで青葉山エリアを認知してもらえる。

- ・ 今後、ビジョンの見直しをするたびにパブコメをし、情報発信をする。そして今まであまり関心を持っていなかった、意見を言わなかった人たちも関心を持つような機会になればいい。
- ・ 仙台での色々な場所の体験の仕方、自然も含めて地質、地形、歴史など、いろいろな活動をしているグループなどの知見を収集して、このエリアの魅力発信と併せて公開できるといい。
- ・ 青葉山エリアのことを発信する主体が必要だ。多様な施設の情報に精通していてそれをまとめ、さらに魅力を加えて発信するということは大変なことだ。
- ・ 青葉山エリアを奥に行くほど、東北大学という冠がついていて市民が利用してもいいのかとってしまう。一般的には開放されているが、そのことが市民に認識されていない。専門性が高まっていく部分もあるが、市民に開かれた場だということをしっかり情報発信していくことも大事。

#### 《今後の取組み等について》

- ・ 青葉山エリアでは多様な主体が施設を運営している。例えば大規模会議の、開会式を音楽ホール、分科会を国際センター、パーティーをユニークベニューでということを考えてときにその調整が主催者の負担になる。そこで、DMOのような全体をマネジメントする機能があるとよい。例えば市や商工会議所、商店街、地下鉄、警察、などの関係者が集まって、「今度こういう会議が開催されるので市民も含め、地域全体で協力していこう」ということができる組織があると、より青葉山エリアの魅力が引き立つのではないか。
- ・ 運営面で青葉山エリア全体を、例えば民間に委託して全体をマネジメントし、その中でその時々様々企画やイベント、自然の四季彩などを紹介しながら、より多くの地域を楽しんでいただくという、ハードだけではなくソフト面の仕掛けが必要ではないか。
- ・ 仙台の広瀬川は、まちには非常に近いところにあるので、これをどう有効に活用していくかということが大事なポイントになる。
- ・ 市民の散歩するルート、観光客が辿っていくところの歴史や良さがしっかり分かるといったものをしっかりと立てていきながら市民と観光客の動線を整理し、「観光客ばかりいて」といった風景だけが出てくることのないような、市民の憩いの場への配慮を考えてほしい。
- ・ 青葉山エリアだけでなく都心に人が行かないと夜のお金が落ちない。都心に人が行ってもらう工夫をするためには、コンベンションの主催側の努力だけでなく、受け入れる側にも、コンベンション参加者が足をのばして来てもらったならまち全体が盛り上がるということを実感してもらうことが大事。
- ・ 持続可能な観光や持続可能なMICEなどが重視されている。例えば、公共交通機関で来たのか、車を使ったのかというチェックを行う会議もあるくらいなので、やはり公共交通機関や歩いて行けるということは点数を稼げる。今後こうした視点は大事になってくるので、仙台で観光・MICEをするといったときに、持続可能という切り口でも意義があるということも魅力として打ち出せばいい。